

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成27年10月29日
タイトル	「くわい」の収穫前の水路浚渫！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成27年10月25日（日）福山市曙町で、福山市の特産物である「くわい」の出荷を控え、農業用幹線水路しゅんせつの浚渫が行われましたので取材しました。

曙町・新涯町が区域の「新涯工区」は「くわい」の産地で、水土里ネット福山組合員の代表（工区役員）により毎年10月に水路浚渫を施工しています。当日は、枝廣義春工区長えだひろよしはるをはじめ工区役員21名が水路浚渫を施工しました。一の川幹線水路の上流（新涯町分）と下流（曙町分）を一年おきに施工しておられ、今年度は曙町分の幹線水路、延長約1,000mを浚渫しました。

朝7時に集合し、枝廣義春工区長が「事故のないよう1日がんばりましょう。」と挨拶され始めました。くわいの収穫で使う、水中ポンプで用水路の水を排水路へ汲み出し、水路の水位を下げた後、浚渫をします。

以前に役員が稲刈機を改良して手作りされた「浚渫マシン」を重機で水路へ下して、まずは機械で浚渫し、後から水路へ入って鋤簾で水路を浚います。

上流から始めたところ、目視ではさほど堆積しているように見えませんでした。10mおきに堆積土をまとめるくらいの量が堆積していました。ゴミがあると丁寧に分けて分別収集しておられました。鉄のパイプのような物も出てきました。毎日の見回りで目に見えるゴミは取っておられるそうですが、水中に沈んで堆積土に埋まっていたゴミが土嚢袋に10個以上もありました。



水路には、転落防止のガードレールが取り付けられているため「浚渫マシン」を下すのも一苦労です。水路に架かった橋梁の下を潜るため、「浚渫マシン」のハンドルを下げられるようにしてありました。それでも潜れない場所では、「浚渫マシン」を水路から上げなければいけません。

1時間ほど作業をしていると堆積土をバキュームカーで吸取り、仮置き場へ運搬する業者が来ました。早速、水路にまとめてある堆積土を取りました。バキュームカーのホースが暴れるため、工区役員も協力してホースを押さえました。約500mほど進み、大きな幹線道路の交差点を過ぎると急に堆積土が増えました。浚渫マシンを5mほど押し進めると溢れるほどの堆積土がありました。そこからは、少しずつ浚渫マシンを押し進めてバキュームで吸うという時間のかかる作業となりました。



「くわい」の栽培は、水稲の田んぼにくわいの苗を植えます。田植えより少し遅く6月中旬から下旬に植え、11月中旬から収穫が始まります。収穫は、水中ポンプで水を汲み上げ、水圧で地中の「くわい」を掘り起こすため、収穫前に用水路を浚渫し清掃するようになったそうです。用水路は、浚渫マシンとバキュームの後、手作業できれいに清掃されました。

福山の冬の風物詩とも言える「くわい」の収穫が楽しみです。



バキュームカーは2台で堆積土がいっぱいになると交代で仮置き場へ運びます。仮置き場では、バキュームカーの後ろが開き、勢いよく堆積土が放出されました。

この堆積土は栄養価が高い土なので、去年は、ほ場へ入れてくださる方がいたそうですが、今年は仮置きし乾燥させて業者に処分してもらおうそうです。



凄い迫力で一気に放出されました。大きなゴミは取っており、田植えができそうな堆積土でした。

くわいの葉も少しずつ茶色になり、11月からはくわいの出荷が始まります。きれいに清掃された水路で十分に水が確保できることと思います。

水土里ネット福山では、引き続きくわいの収穫や出荷の様子、子ども達の収穫体験などの農業体験の様子を取材したいと思います。

